

週日の説教

金 大烈 神父 2011年5月18日(水)

《イエス様の愛に答えて、宣教に取り組みましょう》

今日の福音(ヨハネ 12:44-50)は、イエス様が興奮して叫び声を上げてしまった内容です。その時、どう感じられてかは分かりませんが、『イエスは叫んで』という表現があります。その場で色々なことを感じられたのでしょうか。なぜ私の話を聞いてくれなかったのか、なぜ自分の全てのことを拒もうとする者がいるのか、なぜそのような目しか持つことが出来ないのか、色々心が痛くて、今日ある意味でイエス様は結構厳しい話をなさっています。私はあなたがたを裁くことはないでしょう。しかし、私の言った言葉が、あなた方に責任を問う日が来るという警告を表していることです。福音の初めのところにこのように書いてあります。『わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなくて、わたしを遣わされた方を信じるのである。』この言葉に私達は見習わなければならないと思います。

さあ皆様、率直に考えてもらいたいと思います。本当に誰かのために、「この人ちょっとイエス様と知り合いになったらいいのでは」と思った人がいて、その人のために、心をこめて何かをなさったことはどの位あるのでしょうか。私は4年前から度々話しています。宣教部会を作って、宣教委員長も立てて、なんとかしましょうと言いながら今まで来ました。今まで洗礼を受けた人は、自分で教会に足を運んで来た人達が9.5割以上でしょう。誰かに誘われて、「この方は信者になったらいいのではと思って、私と一緒に教会に来ました」という人は一人も覚えがありません。なぜ深刻に聞いてくれないのか。これをただ文化の違いのせいにするしかないのか。日本が歴史的に色々傷を受けたので、宗教的な誘いとか進めは、お互いに迷惑になると強く感じているのか。

それでは、殉教された人々はどうでしょうか。一言でいえば「イエス様あなたを信じます。あなたの道について行きます。」と楽だったのでしょうか。彼らは楽なところ、活動しやすいところで宣教したのでしょうか。いいえそうではありません。ある意味で日本のように宣教し易いところはありません。何でも備えられています。しかし率直に言いますと、信者の私達に積極性が全然ないためです。ということはやる気がないと言う他ありません。これは私が皆様を責めることではなくて、息苦しい気持ちを表しているのです。

さあ、イエス様が「私を信じる者は、私を遣わされた御父を信じることになる。」とおっしゃっています。逆に考えてみて、もし私達の色々な振る舞いとか、心配りとか、そういうところを人々が見て、「私も、あの人が信じている何かを知りたい」という気持ちにさせることが出来れば、そこから宣教が始まると思います。私達はどのような香りを出しているのでしょうか。

これも何回も強調して来ましたが、信仰は利己主義的になってはいけません。自分だけの救いを求めるのは福音ではありません。そして、自分だけ求めても救われないのが信仰です。カトリックの信仰とは共に^{つちか}培う共同体の信仰です。

イエス様は私達に二つのことをおっしゃったのです。一つは「私のことに耳を傾けて下さい」。もう一つは「傾けて聞いた話を実践して下さい」と。しかしこの二つのお話、私達は満足しながらついて行ってるのでしょうか。

皆様、皆様のために申し上げます。私達は宣教のために動かなければなりません。苦手でもいいのです。なぜなら自分がすることではありませんから。私達はただ体だけ貸してあげることです。それ以後の働きは神様がなさいます。“神様の御手に協力することを宣教と言います。”困っている人がいれば、その人のために私は何が出来るのか。その人のために私が持っている喜びをどうすれば伝えられるのか。それぐらいでも考えることが出来れば、それ以後のことは全部イエス様が、神様が、聖霊様がなさって下さると信じます。問題はその人に福音的な憐れみの目を注がないことです。私達の喜びは、相手の幸せによってもっと大きくなります。自分だけの幸せはどう考えてもあり得ない現実です。結局、喜ばれる人々が増えることによって、自分もやりがいを感じ、そこで生きる意味を探せます。

今日の福音もう一度振り返ってみましょう。もし皆様が一人でも、イエス様を全然知らない人に一人でも手を伸ばすことが出来て、たとえそれが失敗したとしても、その場でその人の胸には種が落とされたこととなります。

なぜ全然動かないで「私には出来ないよ」と言うのでしょうか。ある意味で、信者の私達が、福音を一番妨げている心を持っているかも知れません。

皆様これは「やってもいい、やらなくてもいい」ものではありません。何回告解しても、このような告解はある意味で十分相応しい告解内容かも知れません。「私は資格がありません」と言わないで下さい。資格があつて殉教した者は一人もいません。資格があつて神父になった者も一人もいません。資格があつて聖人になった者は一人もいません。資格、資格という力があれば、それくらい謙遜な心があれば、イエス様の御言葉に従おうとして動くはずだと思います。

皆様、実際に去った日曜日は、(主日は) 召し出しの日でした。しかし悲しかったのは、この毎日のミサの本にも教会のカレンダーにも、その召命について一文字も書かれていないのです。それぐらい意識がないということです。やはり環境は作ってあげるのが一番大事なことです。今日は召命の日です。召し出しのために心をこめて祈りましょう。神学院でも訪問してみましょう。修道院にでも行ってシスター達のため、修道者のために祈りましょう。子供達をどうすればいいのでしょうか。このような取り組む姿が全然見えなくなってしまいました。

皆様、結局教会は意識化、意識から始まります。その意識を持つように、そして祈りの内に何が一番相応しいことかと、それに取り組む姿勢が必要ではないかと思います。皆様イエス様が皆様を愛されたように、皆様もその愛に応えられる自分になるように頑張りましょう。

ありがとうございました。